

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 14日

事業所名 ROSELLE2ND KIDS CLUB

		チェック項目	はい	いいえ		課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			1対1で支援が必要な利用者様や、配慮が必要な利用者様が多い為、室内のスペースや部屋数に対しては改善策が常に求められています。公共の施設や公園を利用しそれぞれの利用者様に対応し十分に活動してもらえるよう努めています。
	2	職員の配置数は適切である	○			配置人数は適切です。ただ、利用者様の特性に対し十分に対応しようと考えたと職員不足を感じさせてしまっていると思います。配置された人数で安全に支援を遂行できるように利用者様の様子を認識し活動内容を十分に話し合い支援にあたるよう努めています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			現状、バリアフリー化が必要な利用者様の利用はございません。バリアフリーが必要な利用者様はローゼルの利用を提案させて頂くこともしています。また必要に応じて施設改善、修復は随時行っています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			頂いたご意見は職員全員で拝読し今後の支援の励みにさせていただきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			勤続年数や目標に応じて研修に参加させて頂いています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		年に2回(都度)保護者様との面談を設けさせて頂き、個々の支援計画書を作成させて頂いています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		大まかな活動を決定させ、支援前に職員で細かな打ち合わせを行っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に応じた活動や、年に2回発表会を開催しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		季節や提供時間に応じた活動を提供しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		ここにあった活動で充実感を得てもらえるように活動を計画しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			事前に打ち合わせをすることで職員同士が共通した認識で支援にあたる事が出来ていると実感しています。今後も継続していきたいと思えます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			現状、利用者様の送迎を済ませ事業所に戻れる時間が就業時刻ギリギリということもあり支援終了後にその日1日を振り返ることが難しいので、翌日の朝に前日の振り返りを済ませ共有できるよう努めています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報、週報、月報の記録を取り支援の工夫・改善に努めています。	今後も継続して取り組みます。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		年に2回(都度)保護者様との面談を設けさせて頂き、個々の支援計画書を作成させて頂いています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		公園活動、室内活動のほか公共施設の利用を増やし活動するようになっています。	ガイドラインを用いて勉強会を開き、自分たちの提供している支援がガイドラインに基づいて行われている認識を揃えます。また、ガイドラインに基づいた支援を提供しないといけないといった認識を持ってもらえるようにします。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者で対応していますが、会議前には職員全員で対象の子供の議事録を録音するようにしています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校へお迎えに行かせていただいた際、必ず先生と顔を合わせてその日の様子等をお話しして引き渡してもらうよう努めています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		必要に応じて保護者様の承認を得て主治医の指導を頂き支援にあたらせて頂いています。	主治医に研修の機会を頂き利用者さまに対しての対応策等の研修を受け事業所内でも研修を行い職員全員が共通認識を持ち支援にあたるよう努めています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		ご依頼や、必要に応じて対応しています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		ご依頼や、必要に応じて対応しています。	保護者様や移行先の事業所様からのご依頼があれば対応させて頂いています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			今後機会があれば参加していきたいと思えます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域の公園を利用する機会も作っています。	音楽発表やスポーツフェスティバルの際に地域の学生を招待し互いの発表を鑑賞したり私たちの活動のお手伝いをして頂いたり交流を図っています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		情報収集に努め、今後機会があれば参加していきたいと思えます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時等に様子をお話ししたり聞かせて頂く内容を職員で議事にまとめ日頃の支援に生かせるよう努めています。	いつでも、ご相談ください。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		送迎時やお電話で対応出来るようにしています。	事業所内でペアレントトレーニングについての勉強会を開き職員全員の認識力の向上を目指します。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学時にご説明するようにしています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に様子を伝えたり伺いながら相談してもらいやすい環境づくりに努めています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		父母の会は設けていませんが、必要に応じていつでも対応が出来るよう事業所の体制の改善に努めていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			その都度、書面を配布させて頂いています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			行事前にはチラシの配布をさせて頂いています。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きの書庫を使用し保管しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			音楽発表会やスポーツフェスティバルに地域の学生を招待された頂いています。毎年、参加頂き互いの交流が図れていると思っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員は周知させてはいますが、保護者への周知はされていません。今後どのように周知していくべきか検討させていただきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年2回避難訓練(実施義務)を行い、またそれ以外にも訓練に値する活動の機会を作っています。	今後も継続していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	1対1での対応が必要な利用者様に対して担当を配置する際に、担当が特定の職員に偏らないよう、または年齢や体調面に配慮し支援にあたるよう心掛けて	職員の思いを知り、働きやすい職場作りを目指し面談機会を設けていきたいと思っております。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	職員による議事のもと利用者様の安全が脅かされると判断に至った場合のみ保護者様に状況説明と拘束手段をご説明させて頂き承認を頂いたうえで計画書にも記載し支援に当たらせて頂いています。定期的に議事を録り拘束解除に向け支援内容の改善に努めています。	今年度は、1名の拘束解除を果たすことが出来ました。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	定期的に保護者様よりアレルギーチェック表を提出して頂いている。	必要に応じて、保護者様承認のもと意思との面談を設け医師からの講習を受けて支援にあたらせて頂いています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	毎週担当を決め議事を録りファイリングしています。	ヒヤリをマイナスに捉えず、些細な事にも目利き、気配りが出来、気付いたヒヤリはを改善させ利用者様が安全に楽しく過ごせる事業所であるよう前向きに取り組み続けて欲しいです。